

体感安全教育施設・設備「はさまれ・巻き込まれ」に関するとりまとめと
今後の展開について（案）

I. 同業他社、他業種における体感安全教育施設・設備「はさまれ・巻き込まれ」に関する情報の共有化

下記に関する特徴的な傾向を示す。

1. 保有目的
2. 体感安全教育の実施状況
 - 1) 使用施設・設備と教育時間
 - 2) 指導員
 - ①. 人員
 - ②. 資格
 - 3) 習得すべきポイント
3. 体感安全教育施設・設備の利用状況
 - 1) 対象者
 - 2) 利用者
 - ①. 自社内
 - ②. 協力会社
 - ③. 一般
4. 体感安全教育における検討課題
5. 体感安全施設・設備の概要（写真等を含む）
6. 事故防止対策としての設備対応の設計思想あるいは具体的な設計基準
7. 事故防止対策としての基準類の制定
8. 体感安全教育とともに事故防止対策としての設備対応の設計思想および基準類の教育

II. 今後の展開

1. 体感安全教育施設・設備「はさまれ・巻き込まれ」に関する今後の展開
 - 1) 良好事例の選定
 - ①. 充実した体感安全教育施設・設備を保有している。
 - ②. 特徴的な体感安全教育施設・設備を保有している。
 - ③. 事故防止対策としての設備対応の設計思想および基準類を策定し、体感安全を実施している。
 - 2) 良好事例事業所等へのヒヤリング
 - 3) 良好事例事業所等による発表と意見交換会
 - 4) 良好事例事業所等の一般への公表（可能ならば）
2. 体感安全教育施設・設備の情報共有化に関する今後の展開
 - 1) 体感安全教育施設・設備「墜落・転落」あるいは「転倒」
 - 2) その他